

り或人寄進して、毎年張替として此時まで掛置くなり、如何なる人も此邊にて雨雪の降懸れば、斷りなしにさして歸り、日和の時律義に返して、一本にても足らぬといふ事無し、

〔當世下手談義〕二惣七安賣の引札せし事

俄ぶりの雨の足より、いや増の貸傘、貳千七百六拾ばんなど、筆ぶとに見えらせし、越後屋伊豆

藏の家名、大路一ぱゐにはびこり、略下

〔守貞漫稿三〕十今世専用ノ傘、皆紙バリ、荏油ヒキ、天和以前大坂ニテ製之、今モ大坂長町及ビ大黒

屋ノ雙傘ツシボト云者名アリ、紙厚ク骨竹ノ削リ粗ニシテ繫糸強ク、裝束糸ナシ、圓形ノ印アリ、今ハ大

絶名ヲ大黒傘ト云コトニナリタリ、○大黒傘ト云コトニナリタリ、

同製女傘ハ僅ニ小形、糸裝束ナク、薄縹紙ニテ骨番ヒノ所ト、周リノ端トヲ張り、其他全クハ白紙

バリ也、守貞云、今ノ東大黒ノ類歟、


今世江戸ノ番傘モ、専ラ大坂ヨリ漕シ來ル者ヲ用フ、又藝州侯藩中ニテモ番傘ヲ内職ニ製


古製傘ノ寸法ヲ載セズ、今世番傘概徑リ三尺八寸、骨數凡五十四間、柄ノ長ケ凡二尺六寸、番傘

書法種々隨意一ニ非ズト雖ドモ、粗其形ヲ圖ス、○圖 譬へバ此傘ハ、本町伊勢屋万兵衛ノ所持ナ

リ、**券**ハ戸主ノ名ニ入山形ヲ副テ記號ニスル也、此記號ハ家紋ト別也、俗ニシルシト云、又番數

ヲ記ス、或ハ彼ヲ書テ是ヲ不書、或ハ是ヲ記テ彼ヲ不筆皆トモニ隨意也、今世ノ番傘、専ラ油紙

ヲロクロ上ニ覆ヒ、麻糸ヲ以テ括之ナリ、○中 故ニ此傘ノ頭ハ、此形ノ轆轤也、紅葉傘等ノ頭

ハ、此形也、○中

東大黒傘ハ、骨數六十間、大サモ紅葉傘ト同製、唯轆轤ハ番傘ト同形ニシテ、小形也、頭ニ當紙ヲモ

用フル也、然モ飾糸モアリテ、楓傘同意ノ用也、大黒ト云番傘從來價二三百錢、安政以來諸品漸

貴價、慶應ノ今ハ大略價三倍ス、